

内子

ものがたり

◎第一話 語り部 大村 博さん(内子10) 筆跡から分かる建物と人のつながり

城廻の高昌寺の本堂入口に掲げられている「大雄殿」の金箔塗りの見事な扁額は、大洲藩の9代藩主加藤泰候公の直筆で約200年前のもですが、少しも風化していません。これは日本人が編み出

した塗り物の知恵である漆と金の特性である「熱と酸化」に強い性質を生かしているからです。この額が高昌寺文書に書いてあります。それによると、当時の大瀬村の庄屋・曾根仙右衛門が寄進した

もので、京都で作らせています。大雄殿とは仏殿という意味です。このほかに、大瀬地区乙影山の御調神社の神号額を大洲藩の六代藩主加藤泰候が、菖蒲の船戸神社の神号額を泰衛の八男泰周が書いています。大洲藩には書や絵を得意とする藩主や藩士が多く、中でも三代藩主加藤泰恒は両方に優れ、小田の旧庄屋宅には晩年の作品だと言われている「涅槃絵図」が保存されています。

わたしが内子で書画の選別を頼まれたお宅からゴミとしてもらったものの中に「戸養括」という人の名前が入った紙切れが混ざっていたことがあります。中国人が書いたものかと思っていたら、寛延三年(内ノ子騒動のころ)に大洲藩の財政再建で実績を挙げた人物だったことが分かりました。この人は町内のあちらこちらのお宮の神号額も書いていました。お宮やお寺とのつながりが分かります。戸田養括の「田」を略していました。

お知らせ号に続き、1日号も一部内容をリニューアルしました。「住人十色」は、いま注目の人を取り上げるコーナー、「内子ものがたり」は町内に受け継がれてきた文化財や伝統行事など、まちの宝物を紹介するコーナーです。皆さんに愛されるコーナーになるよう、心を込めて育てていきます。見守っててくださいね。(み)



1 「大雄殿」扁額を説明する大村さん
2 御調神社の神号額
3 船戸神社の神号額
4 高昌寺(城廻)の外観
5 御調神社(程内)
6 船戸神社(内子22)



表紙の写真

21年度末をもって閉校予定の程内小学校(越智誠校長)で4月8日、最後の入学式が行われました。新入児童は篠原萌さん一名。校長先生から教科書を手渡され、元気よく返事していました。

編集幸記

4月から広報の担当になりました。現在、カメラの使い方や編集方法を一から勉強中です。読者の皆さんに読みやすい広報と言われるように頑張ります。どうぞよろしくお願ひします。(光)

お知らせ号に続き、1日号も一部内容をリニューアルしました。「住人十色」は、いま注目の人を取り上げるコーナー、「内子ものがたり」は町内に受け継がれてきた文化財や伝統行事など、まちの宝物を紹介するコーナーです。皆さんに愛されるコーナーになるよう、心を込めて育てていきます。見守っててくださいね。(み)